

東海第二発電所の調整運転開始について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、定格電気出力110万キロワット）は、本年9月16日から第19回定期検査を実施しておりましたが、所定の点検が終了したため、12月8日から定期検査の最終段階である調整運転を開始する予定です。また、調整運転開始から、定格熱出力一定運転※を実施する予定です。

なお、今定期検査中において、原子炉停止操作時に動きの鈍かった原子炉再循環流量制御弁（A）を点検した結果、一部の部品に割れ及び欠損と脱落が確認されたため、定期検査期間を延長して、当該A弁の部品交換及び手入れを実施するとともに、B弁の開放点検及び手入れを実施しました。

また、欠損部等については、系統内に滞留しても安全上問題のないことを評価確認しておりますが、この期間に原子炉底部等の点検を実施し、原子炉圧力容器ボトムドレン弁内より一部を回収しました。

今後は、安全運転に万全を期しながら運転を行ってまいります。

※定格熱出力一定運転とは：

定格熱出力一定運転とは、原子炉で発生する熱（原子炉熱出力）を原子炉設置許可で認められた最大値である定格熱出力で一定に保って運転する方法であり、冬季のように海水温度が低い時期には発電効率が良くなり、従来の定格電気出力一定運転に比べ、発生する電気が増加する運転方式です。

以上

1. 定期検査を実施した主な設備

- （1）原子炉本体
- （2）原子炉冷却系統設備
- （3）計測制御系統設備
- （4）燃料設備
- （5）放射線管理設備

- (6) 廃棄設備
- (7) 原子炉格納施設
- (8) 蒸気タービン設備
- (9) 非常用予備発電装置

2. 主要な工事

① 9 × 9 燃料の採用

【概 要】

- ・ 燃料の効率的な使用及び使用済燃料の発生量の低減を図るため、燃料棒配列を 9 行 9 列とし、太径のウォータ・ロッド 2 本を配した構造を有する 9 × 9 燃料（A 型）及び角管ウォータ・チャンネル 1 本を配した構造を有する 9 × 9 燃料（B 型）を採用しました。

② 新型制御棒の採用

【概 要】

- ・ 制御棒取替本数の削減による廃棄物低減等を図るため、ボロンカーバイド粉末を制御材とする制御棒に加え、ハフニウムフラットチューブを制御材とする長寿命化の制御棒を採用しました。

③ 残留熱除去系蒸気凝縮系の機能削除工事（浜岡 1 号機配管破断対策）

【概 要】

- ・ 残留熱除去系の機能の一つである蒸気凝縮配管を切り離すことにより、蒸気凝縮系の機能を削除しました。

④ 定格熱出力一定運転関連工事

【概 要】

- ・ 定格熱出力一定運転を導入するにあたり、運転管理の信頼性をより一層向上させるため、中央制御室に原子炉熱出力を常時表示する原子炉熱出力表示器を設置しました。

3. 燃料取替実績

燃料集合体全数 7 6 4 体のうち、1 6 0 体（うち 9 × 9 燃料 1 1 6 体）を取替えました。

4. 運転再開予定

原子炉起動	平成 1 4 年 1 2 月	7 日	0 時頃
調整運転開始	平成 1 4 年 1 2 月	8 日	
定常運転再開	平成 1 5 年	1 月	上旬

5. 次回定期検査予定
平成16年冬頃

以上

参考資料

東海第二発電所 主要系統概要図及び原子炉再循環流量制御弁に係る探査範囲（図解）

東海第二発電所 主要系統概要図及び 原子炉再循環流量制御弁に係る調査範囲

(参考)

